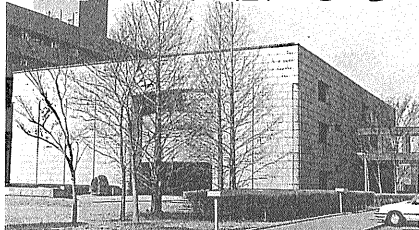


地質標本館だより



No. 39

新着標本

磁鉄鉱溶岩

チリ共和国北部、エル・ラコ(El Laco)鉄鉱床産の磁鉄鉱(Magnetite)が、日鉄鉱コンサルタント株式会社から寄贈されました。エル・ラコ鉄鉱床は、チリ北部の主要都市アントファガスタ(Antofagasta)の東方約300 km、アルゼンチン国境に近いアンデス山系のラコ火山(5472 m)南麓に広がる溶岩台地(4300~4900 m)上にあります。鉄鉱は、溶結凝灰岩化したラコ溶岩を抜いて噴出した、ほとんど磁鉄鉱からなる溶岩で大変珍しいタイプの鉄鉱床です(写真1, 2)。この溶岩は急冷のため一方向に節理(割れ目)が発達することがあります。

(坂野靖行, 遠藤祐二)

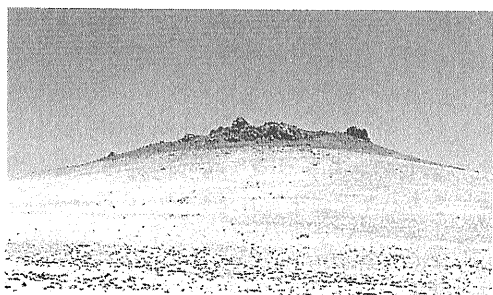


写真1 南方から望む磁鉄鉱溶岩の遠景(ラコ・ノルテ鉄体), 下位層は溶結凝灰岩。



写真2 磁鉄鉱。一見普通の溶岩のように見える。写真1, 2は日鉄鉱コンサルタント(株)提供。

普及・広報活動

アンモナイトのロマン(1995年1月21日)

学園都市の自然と親しむ会主催の地学セミナー「中生代の覇者 アンモナイト(菊石)のロマン」が地質標本館で開催されました。同館の利光誠一主任研究官がスライド、化石を用いながらアンモナイトの形態、繁栄と絶滅について講演をおこないました(写真3)。参加者は小学生から主婦、学生、熟年男性まで幅広い年齢層の人々で、アンモナイトに関する疑問点(特に絶滅した原因について)を積極的に質問していました。なお、この地学セミナーの様子は常陽新聞(1月29日付け)に掲載されました。

地質標本館所蔵化石標本目録「第1部 植物化石」の出版(1995年2月)

地質標本館に登録されている地質標本の情報を公表し、国内外の研究者、博物館等、標本利用者・機関への便宜をはかるため、植物化石標本(約3,100点)を収録した目録が、地質標本館標本情報専門職の松江千佐世事務官と元所員の尾上 亨博士によって作成されました。本目録は産地索引図、産地別リスト、植物分類別索引、地質年代別索引および化石名索引からなっています。

地球と生物の歴史(地球史年表)のポスターの製作(1995年3月)

地質標本館開館15周年記念として、第一展示室のカラーコルトン「地球と生物の歴史」をもとにした地球史年表のポスターが製作されました。希望者には配布しており好評を博しています。内容につきましては地質ニュース483号 p. 63-66を参照して下さい。なお年表作成に当たり名古屋大学の小澤智生

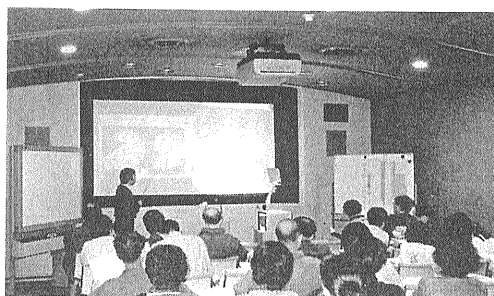


写真3 地学セミナー「中生代の覇者 アンモナイト(菊石)のロマン」の講演風景。

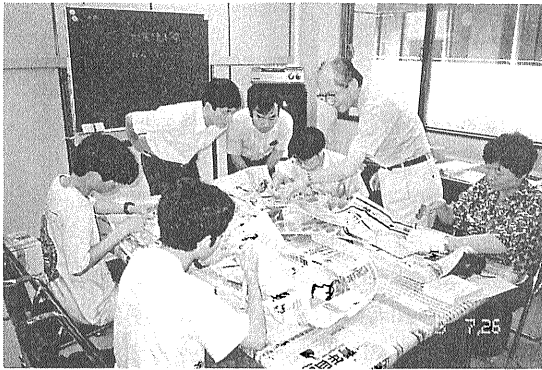


写真4 植物化石の同定実習。尾上博士の指導のもと、参加者は植物化石の名前を決めている。



写真5 化石採集会風景。地質標本館員によるナウマン象化石の解説を聞く参加者。

博士に文献等について御教示いただきました。

入館者からの見学レポート(1995年6月)

団体で入館した場合、後日団体の世話人の方から感想文、アンケートなどが送られることがあります。最近では名古屋大学の平原靖大先生から、同大学理学部地球惑星科学科3年生31名の見学レポートが寄せられました。今後の展示解説に活かせればと考えています。(坂野)

科学教養講座参加者の対応(1995年7月26日)

工技院筑波研究支援総合事務所主催の科学教養講座が7月25日から28日に開催されました。26日には地質調査所の見学があり、地質標本館では「植物化石の採取と同定」と「岩石薄片作成と顕微鏡観察」の2コースを担当しました。

「植物化石」の参加者は7名で、元所員の尾上亨博士らの指導のもと、栃木県那須郡塩原町産の植物化石(第四紀更新世)のクリーニングに挑戦しました。参加者はハンマーとタガネを使って頁岩から植物化石を見つけ出して整形し、種の同定をおこないました(写真4)。同定はなかなか難しく、尾上博士のアドバイス(葉のどの部分を見ているか、葉の外側の形状はどんなふうか)を受けながら名前を決めていました。岩石を割ったときに化石が入っているのを見つけたときの参加者の嬉しそうな表情が印象的でした。

「岩石薄片」にも7名が参加し、佐藤芳治課長らから、実際の装置やモデル展示による一岩石から薄片のできるまで—の説明を受けた後、代表的な岩石薄片を偏光顕微鏡の下で観察しました。造岩鉱物が示す多彩な干渉色を驚きの目でみつめており、たかが石ころに対する見方を少なからず改めることになったようでした。(坂野、遠藤)

ナウマン象化石採集会(1995年7月29日)

地質調査所近くのつくば市下広岡を流れる花室川の河床でナウマン象化石の採集会(主催:学園都市の自然と親しむ会)がありました(写真5)。地質標本館から化石の専門家が参加し指導・普及活動を行いました。今年は小学校高学年生を中心にして約70名の参加がありナウマン象の臼歯の一部・牙の一部、シカの角が採集されました。ナウマン象は今から30万年~1万5千年前の日本の北は北海道から南は宮崎まで生息していた日本を代表する象で体長は4.5m、肩までの高さは2m数10cmに達します。ナウマン象といっしょにでてくる材化石の ^{14}C 分析から、今から3万年前のつくば市には豊かな森があり、ナウマンゾウ、シカなどがたくさん生活していたことが推定されます。(佐藤喜男)

上記の出版物および記事に関してさらにお知りになりたい方は、下記までお問い合わせ下さい。

地質標本館: Tel. 0298-54-3751